

表 華族同方会における演説会

年月日	講師 内容	テーマ:華族	年月日	講師 内容	テーマ:華族
1887.09.24	演説会。添田寿一「英国貴族之状態」	○	1890.04.12	演説:北島道龍「国体ノ秩序及親一即我邦ノ疾病」	
1888.02.25	演説:ボアソナー「仏国歴史華族之地位」	○	1890.04.26	演説:小澤武雄「歐羅巴ノ貴族」	○
1888.03.10	演説:スタイン「欧州之貴族」	○	1890.05.17	臨時会。演説:河井庫太郎「華族之方向」	○
1884.04.14	演説:田尻稲次郎「経済学大意」		1890.06.21	臨時会。演説:黒田綱彦「華族諸君ニ望ム」、萩原三三「習慣亞性」	
1888.05.12	講演:末松謙澄、内容:新しい市町村制について(読売新聞、1888.05.13付)		1890.06.28	演習会、金子堅太郎「貴族論」(朝日新聞、1890.07.01付)	○
1888.05.26	演説:青木周蔵「地方自治ニ關スル貴族ノ權利及義務」	○	1890.09.27	演説:曾我祐準「軍備要論」	
1888.06.09	演説:青木周蔵「地方自治ニ關スル貴族ノ權利及義務(前会ノ続)」	○	1890.10.11	例会。演説:曾我祐準「軍備要論(続)」、長岡護美「羅馬法概論」	
1889.06.23	演説:谷干城「欧州華族之生活」	○	1890.10.18	演説:曾我祐準「軍備要論(続)」	
1889.10.13	演説:鳥尾小弥太「儒教大意」		1890.12.13	例会。演説:内藤趾聖「国体ノ清華」	○
1888.12.09	演説:伊藤博文(主権論に関する演説「主権及上院ノ組織」)		1891.02.14	例会。演説:井上哲次郎「国家ノ性質及ヒ起源」、穂積八東「欧州予算法ノ沿革」	
1889.01.19	演説:西村茂樹「道徳談」		1891.03.14	例会。演説:萩原三三「乳汁考」、添田寿一「歳計予算通論」	
1889.02.26	演説:伊藤博文「憲法ニ關スル演説」		1891.03.28	例会。演説:添田寿一「歳計予算通論(続)」。役員ノ協議會。	
1889.03.09	演説:佐野常民「貴族院ノ性質」	○	1891.05.02	例会。講演:福垣万次郎「東西貴族ノ比較及ヒ其教育論」	○
1889.03.23	演説:勸解由小路資承「憲法發布後華族ノ状態」	○	1891.05.23	例会。講演:福垣万次郎「東西貴族ノ比較及ヒ其教育論(続)」	○
1889.04.06	演説:加藤弘之「貴族院進連化ノ法則」	○	1891.06.13	例会。演説:大給恒「今流行祝詞ノ説」、谷干城「軍川總綱方及ヒ使用法一斑」	
1889.09.21	例会。演説:西村茂樹「貴女教育」。評議員會。		1891.06.27	町田東一ノ学術講演。福垣万次郎「國際法上ニ於ケル日本國」、長岡護美「羅馬法概論」	
1889.10.12	講義、内容:谷干城「華族ノ資格」	○	1891.09.12	例会。演説:梅謙次郎「華族諸君ニ望ム」	○
1889.10.26	集會。報告:松平乗承ノ学習院学科程度調査ノ報告	○	1891.10.10	例会。演説:添田寿一「經濟的軍備法」、土方幸「英國裁判所構成法上ニ於ケル上院ノ位置」	
1889.11.09	例会。小笠原長育が提出した華族會館ノ土地ニ關する議題ノ討論	○	1891.10.24	例会。演説:田辺朝郎「日本將來ノ道筋」、松平信正「北陸紀行録ニ關スル意見」	
1889.11.13	例会。加納久宜ノ学習院ニ關する報告	○	1892.01.16	例会。演説:近衛篤磨「國務大臣ノ責任」、内藤政共「製鉄」、新莊直陳「時事談」	
1889.12.14	例会。演説:日重野安綱「門地ノ事」、谷干城も演説		1892.02.27	會合。講演:北海道庁長官渡辺千秋(内容:北海道について)北海道之実況」	
1889.12.28	例会。幹事ノ改選。演説:大田原一清「華族ノ責任ハ重シ」		1892.03.12	例会。演説:佐野常樹「印度之概況」	
1890.01.11	講義、懇親會。演説:大給恒「武勇弁」、勸解由小路資承ら7名も演説。		1892.03.26	例会。演説:大給恒「華族同方會諸君ニ告グ」	○
1890.01.25	例会。演説:加納久宜「所懐ヲ述テ同族ニ賀ス」	○	1892.04.16	例会。演説:佐野常樹「印度之概況(続)」	
1890.02.08	例会。演説:西澤之助「特論」		1892.07.02	例会。演説:西村茂樹「明覚論」	
1890.02.22	例会。大給恒ノ建議、東久世通禧ノ臨時建議		1892.09.24	例会。演説:阪谷芳郎「各国財政ノ準備及ヒ鉄道ノ關係」	
1890.03.08	例会。演説:萩原三三(萩原三三か、筆者注)「体育ノ要旨」		1892.10.08	例会。華族會館規則改正ニ關する協議	○
1890.03.22	例会。討論(大給恒ノ建議)		1893.04.08	例会。演説:福垣万次郎「南洋航路」	

(出典)華族同方会『同方會演説集』1-6号、1888-1889年(国会図書館デジタルコレクション)。同方會事務所『華族同方會誌』1-41号、1889-1893年(国会図書館デジタルコレクション)。『朝日新聞』読売新聞  
 ※なお末松謙澄と金子堅太郎の講演は同方會演説集・華族同方會誌には見当たらないが、朝日・読売には講演について掲載されている。

表 校友会の講演会

年月日	講演者とテーマ	時事との関係
1921.02.18	井上準之助「欧州大戦後に於ける我が国及び欧米格好の財政状態に関して」	ヴェルサイユ条約発効(1月)
1921.03.18	田中館愛「メートル法について」	尺貫法の廃止
1921.04.18	加納治五郎「欧州視察談」	
1921.07.04	夏期講習會。小島三三「近世社會思想及社會運動論」。井上準「十八世紀以前における英國及大陸文學について」(各1日ずつ)	
1921.07.18	森(ハルビン商品陳列所主任)「ロシアの現状一特にウラジオストク方面に關する」	シベリア出兵
1921.08.30	石井国次(学習院教授)「欧米視察談」	
1921.09.08	二荒徳芳「皇太子殿下御外遊講話」	皇太子外遊帰國
1921.11.18	石黒忠雄「小作問題について」	小作人争議の續発
1921.12.18	山室軍平「救世軍の事業について」	
1922.02.18	橋有恒「アイガア登壇の実験談」	アイガー一登壇、1921年12月帰國
1922.03.18	永井肇「民族衛生殊にマルサス主義について」	マルクス著作の刊行ラッシュ
1922.07.13	講演會。岡美「西洋及び東洋における社會問題及婦人問題の史的考察」	
1922.09.18	黒田清輝	
1922.11.18	松平恒雄「ロシア問題について」	ソ連の拡大
1922.12.18	瀧精一「本阿弥光悦について」	
1923.02.28	末広殿太郎「法律と日常生活について」	
1923.03.16	川上俊彦「ロシアを通過して」	ソ連の拡大
1923.03.18	伊東忠太「明治以来の建築の進歩」	
1923.04.18	駒井徳三「対支雜感」	
1923.05.18	中村古庵「心靈問題について」	北岡文兵衛の事件に關連か?
1923.06.18	井上権二「バルカンと南洋」	
1923.11.18	渡辺鉄「都市計画より見たる帝都復興問題」	帝都復興計画案の完成
1923.12.18	石森勲夫(芝三田警察署長)「警察官の暇たる夜の東京」	
1924.01.18	美濃部達吉「貴族院制度について」	貴族院改進黨の過軌
1924.02.18	實川豊彦「防衛策の前途」	實川が社會問題の専門家として流行別に
1924.03.18	須川邦彦(商船学校教授)「海のローマンス」	
1924.04.18	蛸川新「大戦以後欧米人を支配する國民主義の思想」	
1924.05.18	板垣應穂「西洋彫刻とその表現法」	
1924.06.18	佐分利貞男「最近の日米問題について」	排日運動、排日移民法
1924.09.18	金栗四三、澤田一郎「パリオリンピック大会視察及び同大会実況活動写真観覧」	
1924.10.18	山崎直方「南半球を過ぎりて」	1923年オーストラリアで乳太平洋科學會議に出席
1924.12.18	三田村玄龍「お大名の話」	
1925.01.18	久曾島武彦「エルメルの森の聲」	
1925.02.18	坪井九馬三「原始の食物について」	
1925.03.18	横山英太郎(電気試験所技師)「無線電話に就いて」	ラジオ放送の開始
1925.04.18	一宮鈴太郎(横浜正金銀行副頭取)「為替対策と物價」	
1925.06.18	尾佐竹延「賭博について」	
1925.09.18	永井柳太郎「ウィルソンよりもツルニまで」	
1925.09.27	講義有恒「カナダロッキー山探検談」	ロッキーより帰國
1925.11.18	美登呂昌一(朝日新聞社)「新聞紙に關する三つの大いなる誤解」	
1925.12.18	山川秀好(警視庁消防司令)「防火の要諦」	
1926.01.18	大野守衛(外交官)「在独所感」	
1926.02.18	原田淑人「朝鮮義勇隊時代古墳発掘談」	
1926.03.18	遊佐幸平(陸軍騎兵学校教官、中佐)「馬趣味の海外旅行」	
1926.04.18	兼常清佐「ペートーベンの死」	ペートーベン没後100年
1926.06.18	三田定則「二・三の法医学事案に就いて」	
1926.10.18	田中次郎(日本石油専務取締役)「石油に關する話」	
1926.11.18	芝暮盛(宮内省圖書室編輯官)「長慶天皇の御在位について」	長慶天皇の皇統譜への加列
1927.02.18	井上準之助「對野の將來」	
1927.03.18	桑田芳蔵「群集心理に就いて」	
1927.04.18	原敬次郎「軍縮に就いて」	ジュネーブ海軍軍縮會
1927.06.18	牧野英一「法律の社會化」	
1927.09.18	長岡護一郎「國際労働會議に就いて」	國際労働會議(政府代表)から帰國
1927.10.18	高島平三郎「欧米を巡りて」	
1927.11.18	江頭春樹「原色写真に就いて」	
1927.12.18	斯波忠三郎「高速度活動写真に就いて」	
1928.01.18	橋高広「最近出版界の情勢」	
1928.02.18	伊藤利三郎「番号に關する史案」	
1928.03.18	飯島三安「不良少年少女に就いて」	
1928.04.18	藤懸静也「欧米諸國に於ける我が浮世繪」	
1928.05.18	橋田邦彦「生物の電氣発生について」	

(主典)校友会『校友会會報』第1-63,65-67号、1921-1943年。(学習院大学蔵)。

年月日	講演者とテーマ	時事との関係
1928.06.18	中目覚「東阿弗利加旅行談」	
1928.09.18	黒坂勝美「ベルシヤ湾より地中海へ」	
1928.10.18	和田英三「御大典に就いて」	昭和天皇の御大典
1928.12.18	大森洪太「雜報より見たる英國人」	
1929.01.18	穂積重遠「百人一首類蒐集談」	
1929.02.18	華岡八十雄「東京市に於ける下層生活の実情」	
1929.03.18	吉川澄一「指紋に就いて」	
1929.04.18	広峰忠勝「灯台に就いて」	
1929.05.18	今井忠直「東阿弗利加に於ける獅子狩実見談」	
1929.06.18	東龍太郎「生理より見たるスポーツ」	
1929.09.18	山梨謙之進「海軍軍縮に就いて」	ロンドン海軍軍縮會議直前
1929.10.18	山本信蔵「伊勢神宮と我團體」	
1929.12.18	丸山鶴吉「警察より見たる世相」	
1930.02.18	杉村謙太郎「國際政治の動きについて」	
1930.03.18	堀切善次郎「帝都復興事業と將來の東京」	
1930.04.18	今村均「我南洋群島の話」	
1930.06.18	今村明恒「東西両洋に於ける地震研究の比較」	
1930.09.18	川西東三「我國現下の失業問題」	昭和恐慌
1930.11.18	藤田貞次「諸外國に於ける産業合理化について」	
1930.12.18	津島寿一「欧米最近の經濟状況」	
1931.01.18	奥田誠一「東洋磁器の鑑賞」	
1931.02.18	榎村康太郎「陸軍新兵器に就いて」	
1931.03.18	山田珠樹「シラノ・ベルジュラック」	
1931.04.18	二荒芳徳「シヤム國訪問の感想」	
1931.06.18	浅沼警夫「野球の話」	
1931.09.18	加茂正雄「日本の國際地位と吾人の覚悟」	
1931.11.18	藤本十九郎「日本函に就いて」	
1931.12.18	有馬寛「ソヴェトロシアの近状」	
1932.02.18	浜尾四郎「探偵小説選談」	
1932.03.18	林桂「滿洲上海事案に就いて」	滿洲事案(1931年9月-)、上海事案(1月)
1932.04.18	那須正治「滿洲の經濟事情に就いて」	
1932.05.18	綿崎正治「平家物語と世変と人情味」	
1932.06.18	三宅鑑一「病に坐る運動の姿態」	
1932.09.18	佐々木権爾「万葉集の古抄本に就いて」	
1932.10.18	山本忠興「オリンピック競技と日本」	ロサンゼルスオリンピック
1932.12.18	浦川秀吉「ハツ切事件とキヤング事件」	玉の井(ラウラ)事件、赤色キヤング事件
1933.01.18	牧野輝智「現下の為替問題について」	各國が金本位制から離脱
1933.02.18	福士政一「刺青の話」	
1933.03.18	宮城美「共產党に就いて」	共產党の取り締まり強化
1933.04.18	塩谷温「欧米漫遊談」	
1933.06.18	坪井忠二「地球の話」	
1933.09.18	塚本靖「万里の長城の話」	
1933.10.18	関根軍平「一九三六への展望」※海軍軍縮問題	海軍軍縮問題
1933.11.18	坂西利八郎「最近の支那の情勢」	日中で塘沽停戰協定の締結(5月)
1933.12.18	八代幸雄「現代美術の世界と民族性」	
1934.02.18	小尾龍治「欧米青少年社會運動の話」	
1934.03.18	松田道一「最近の國際諸問題」	
1934.04.18	高野辰之「明治・大正の流行歌」	
1934.06.18	神川彦松「東亜モンロー主義の批判」	
1934.09.18	荒木貞夫「滿洲事案の記念日に際して」	
1934.10.18	澤田謙「現代世界の偉人を語る」	
1934.11.18	安岡正篤「現下の思想諸問題」	
1934.12.18	田誠「我國観光事業に就いて」	
1935.01.18	関根貞「熱河旅行談」	
1935.02.18	大田爲吉「ロシアの近状」	
1935.03.18	坂西一良「國防より見たる國際情勢」	
1935.04.18	吉田茂「欧米視察談」	
1935.09.18	武者小路公共「佛朝談」	
1935.10.18	藤懸静也「日本美術の特色」	
1935.11.18	掛礼功「趣味としての写真」	
1935.12.18	古賀忠造「動物飼育談」	

年月日	講演者とテーマ	時事との関係
1936.02.18	井野辺茂雄「關ヶ原戦争と明治維新」	
1936.04.18	土方成美「統制經濟」	大恐慌からの景氣回復で、統制經濟の議論
1936.05.18	野口米次郎「印度の夏雲に侍りて」	
1936.10.18	白山第三郎「柏林オリンピック大會」及「オリンピック開演の講演」	ベルリンオリンピック
1936.11.18	奥村喜和男「電力統制問題」	電力増産と國家統制の議論
1936.12.18	山田龍雄「税制改革案と關稅制度改革案について」	税制改革
1937.02.18	藤田西彌「忍術の話」	
1937.03.18	松平恒雄「英國の話」	秩父宮渡英奉祝晚餐會
1937.06.18	阿部真之助「華族・貴族院・学習院雜感」	
1937.09.18	林群喜「支那事案について」	盧溝橋事件(7月)
1937.10.18	賀屋興宣「時局に對する財政經濟策」	戰時統制經濟の開始(9月)
1937.11.18	池田純久「北支事案」	支那事案(日中戦争)
1937.12.18	有馬頼三「支那事案と農村問題」	
1938.01.18	徳川義順「上海方面皇軍慰問より帰りて」	
1938.02.18	野村吉三郎「学習院・國際事情」	
1938.03.18	シュルツェ(ナチス青少年団代表)「ナチス青少年団教育」などナチスについての講演	
1938.04.18	姜世鏞「文化万能的に見たる朝鮮」	
1938.06.18	千田貞敏「空襲の話」	
1938.09.18	藤沢威雄「代用品工業の話」	輸出入品等臨時措置法(1937年9月)
1938.10.18	河村達夫「最近の國際情勢」	
1938.11.18	杉山平助「漢口より帰りて」	
1938.12.18	三島通陽「欧米における青少年運動」	
1939.02.18	塩沢幸一「所感」	
1939.03.18	小松茂「放送の新傾向」	
1939.04.18	石渡莊太郎「事案と財政經濟に就いて」	
1939.05.18	北岡寿造「最近の歐洲情勢について」	
1939.09.18	西郷從吾「歐洲戰局について」	第二次世界大戰勃発(9月)
1939.10.18	仙石從久「戰時經濟下における農村經濟機構」	
1939.11.18	南大勳夫「歐州より帰りて」	
1940.01.18	大原武夫「ニコソフ世界一層体験談」	飛行機世界一周成功(1939年10月)
1940.02.18	加納久朗「歐洲大戦及國際金融諸問題」	
1940.03.18	青山幸高「從軍隨感」	
1940.04.18	式場隆三郎「精神不能者と天才的傾向について」	
1940.05.18	木下敏二「南米洋の捕鯨の話」	
1940.10.18	白鳥敏夫「日独伊三国条約について」	三国同盟締結(9月)
1940.11.18	桑木成雄「明治以前我國に於ける自然科学の発達」	
1941.03.18	平出英夫「太平洋・大西洋・地中海」	
1941.06.18	瀧川完威「戦時下の食糧問題について」	
1941.11.18	遠藤嘉一「歐洲の情勢」	
1941.12.18	平出英夫「真珠湾攻撃」	太平洋戦争開戦(12月)
1942.01.18	越田佐一郎「南洋事情」	
1942.02.18	松方義三郎「大陸より見たる大東亜戦争」	
1942.03.18	田中八百八「治山の重要性について」	
1942.04.18	板沢武雄「史実より見たる本邦と南洋圏との相關關係その他」	
1942.05.18	健川美次「ソ連の現状」	
1942.06.18	神原泰「戦争と石油」	
1942.09.18	三島通陽「南洋事情」、東久世昌枝「戦時下の米國事情」	
1942.11.18	松本重治「大東亜戦争を繞る海外諸事情」	
1942.12.18	明石元長「南洋より帰りて」	
1943.01.18	阪谷幸一「華北金融事情」	
1943.02.18	山岸重孝「ドイツを中心としたる歐洲情勢」	
1943.03.18	天野芳太郎「パナマを中心とする中南米事情」	
1943.04.18	多田礼吉「我が南方資源と科學動員」	
1943.06.18	渡辺昭「南方より帰りて」	
1943.09.18	小笠原道生「学生の勤勞作業に就いて」	
1943.10.18	上村伸一「イタリヤ脱落後の歐洲情勢」	イタリヤ降伏(10月)
193		